

制作

花輪まちかつぽ実行委員会
事務局 かつの商工会

TEL 0186(22)0050

お問い合わせ

(社)十和田八幡平観光物産協会
鹿角花輪駅前観光案内所

TEL 0186(23)2019
TEL 0186(22)0108

花輪観光マップ

古写真：
富樫 正一氏 提供

① 鹿角花輪駅



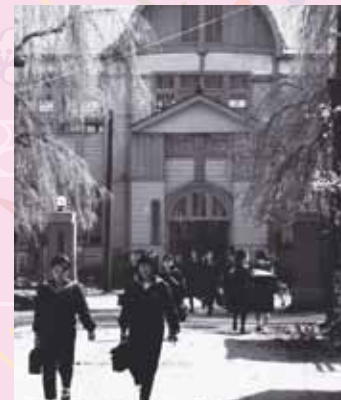
花輪線は、大正2年(1913)11月に大館から着工し、大正12年(1923)11月に花輪まで開通するまで、10年の歳月を要した。
昭和6年(1931)10月、東北本線好摩から着工した国鉄線が、湯瀬溪谷の難工事を克服して花輪駅まで延びて秋田鉄道とつながり花輪線が全線開通し、盛大な祝賀行事が行われた。
平成7年(1995)に駅名が「陸中花輪駅」から「鹿角花輪駅」に改称された。

② 船場 (鍛冶屋)



鹿角の八郎太郎伝説に「十和田湖から追われた八郎太郎は、鹿角を湖にしようとしたが、これを阻止するために鹿角中の産土神(うぶすながみ)たちが『花輪臥牛大寝下(ふくしおおねした)』の鍛冶屋12人に鉄槌(かなづち)と鶴嘴(つるはし)を打たせた」とある。「臥牛大寝下の鍛冶屋」とは、福士川の流れを利用して始まった野鍛冶で、その住んだところが「日向屋敷」と言われている。

③ 鹿角観光ふるさと館「あんたらあ」



この地に昭和3年、県立花輪高等学校(戦後、花輪高校となる)が創立され、船場通りにつながる女学校通りと家並みができた。かつての校門脇に、昭和5年(1930)校舎落成記念として「シダレカツラ」2本<県指定天然記念物>が植樹されており、樹高約15mの大樹として生長している。

④ 枡形 (ますがた)



「枡形」とは旧城下町にある街のつくりで、域外から一気に町通りを見通しや攻めることのできないカギ型の場所をいう。現在では昔の面影は少ないが、近くに地藏様や庚申塚などが並ぶ。また少し南へ行くと鹿角街道の一里塚の白い標柱もあり、その昔の町はずれを思わせる。花輪ばやしの朝詰めではこの場所に神輿が安置され、各町内の拝礼・奉納演奏が厳かに行われる。

⑤ 旧関善酒店 (国登録有形文化財)と花輪の朝市



安政3年(1856)に創業された旧酒店。明治38年の大火により類焼したが、同年再建された。雪国特有のこみせを持つ商家として、日本最大級の吹き抜け木造架構は見事。また向かい側には同じくこみせを持つ小田島家とおよそ400年の歴史をもつ朝市が3と8のつく日に今も続いて開かれている。

⑥ 「恩徳寺」と「長年寺」



六日町、谷地田町の裏手の通りが通称寺小路(てらこうじ)で、南から神明社、恩徳寺と長年寺、御旅所(おたびじょ)がそれぞれ民家を挟んで並び立つ。「恩徳寺」(曹洞宗)の庫裏(くり)は、旧花輪代官所建物の移築である。寺宝の木造弥陀三尊((もくどうみださんぞん)<県指定有形文化財>阿弥陀仏(あみだぶつ)・観世音菩薩(かんぜおんぼさつ)・勢至菩薩(せいしぼさつ))は鎌倉時代後期の作とみられる。「長年寺」(曹洞宗)は、戦国時代に九戸信仲(九戸政実の父)に開創された岩手県九戸郡九戸村の長興寺を前身とする。延宝2年(1674)花輪城代、中野伊織の移封に従い志和郡彦部村からこの地に移した。

⑦ 幸稲荷神社 御旅所



(さきわいいなりじんじゃ)
(おたびじょ)
幸稲荷神社本社は、東方約2Kmに在り、毎年8月16日に幸稲荷神社本社より神輿渡御が行われ、町内を巡行し、この御旅所に神輿が安置される。

⑧ 大堰 (おおせき)



商店街の後ろ西側に流れる大堰の開墾年代は不詳であるが、口碑によると小さな溝、堰が形成し始められたのは天正の頃(安土・桃山時代)と伝えられる。江戸期には東山からの福士川と合流させた約10キロの現在の姿を表す。町の防火用水、田畑の灌漑用水として花輪の成り立ちには重要な位置をしめる。

⑨ 旧鹿角郡公会堂



鹿角郡公会堂は、大正5年に大正天皇御大札記念として建てられた300人収容のステージ付きホールをもつ、木造洋風建築である。かつて、郡内文化の殿堂として各種の催事やホールとして使用されていた。

⑩ 武家屋敷跡 (横町・袋丁)



現在、花輪小学校の建つ花輪館と桜山公園となっている北館の館下になっている横町・袋丁は、組丁にかけて近世に武士居住地である内町(うちまち)を形成していた。横町は、南北に長い鹿角街道沿いの本町通りから、直角に横に入る町割りによっておこった名といわれている。袋丁は、むかし袋小路になっていて、他領から忍び込んだ曲者(くせもの)を路地に追いこんで捕らえたと伝えられている。横町と平行に東西に延びる一角の吉田屋敷跡の石垣に武家屋敷の面影を残している。

⑪ 組丁 赤鳥居



組丁は藩政時代、藩境警護のために特別に藩より預かった足軽組30人が住んだ町。「足軽丁」又は「御同心組丁」と称した。赤鳥居はその真ん中に位置し、幸稲荷神社の参道入口として大きな姿を表す。ここは、花輪ばやし最後の赤鳥居詰めにて神様を遙拝し、「さんさ」を行い解散する場所でもある。

⑫ 下堰向三ヶ寺 (専正寺・円徳寺・長福寺)



専正寺(浄土真宗本願寺派)は、天正17年(1589)京都本願寺11世顕如上人(けんによしょうにん)の弟子諦安教順(ていあんきょうじゅん)こと、井上味兵衛専正(もろまさ)の開基とされる。親鸞聖人御絵伝(しんらんしょうにんごえでん)4幅<市指定有形文化財一絵画>親鸞染筆(しんらんせんぴつ)という紺紙金泥六字名号(こんしきんでいろうくじもようごう)などを寺宝とする。円徳寺(浄土宗)は、寺伝によれば元和2年(1616)に尾去沢永久沢金山に創建されたという。現在地への移転は不詳ながら、延享2年(1745)頃とされる。本堂の十六羅漢像(じゅうろくらかんぞう)はみるべきものがある。長福寺(曹洞宗)は、鹿角三十三観音霊場の一番札所で、慶長元年(1596)の創建。寺宝の木造三十三観音菩薩像(もくどうさんじゅうさんかんのんぼさつぞう)<市指定有形文化財>は1体ずつ姿が異なるのが特徴で、江戸時代中期、京仏師の作といわれる。

8月19.20日

花輪ばやしは、幸福荷
神社の祭典に奉納さ
れる祭礼ばやし。十の
町内から十台の屋台が
り出す。



神社 鹿角田畑開き始めの処点
花輪 鎮守
幸稻荷
花輪古館等
古代・中世館跡

花輪まちなか歴史観光散策



そのあとに、「里肥え人ゆたかにすめり」と、褒めことを添えている。
(市史編さんだよりより)

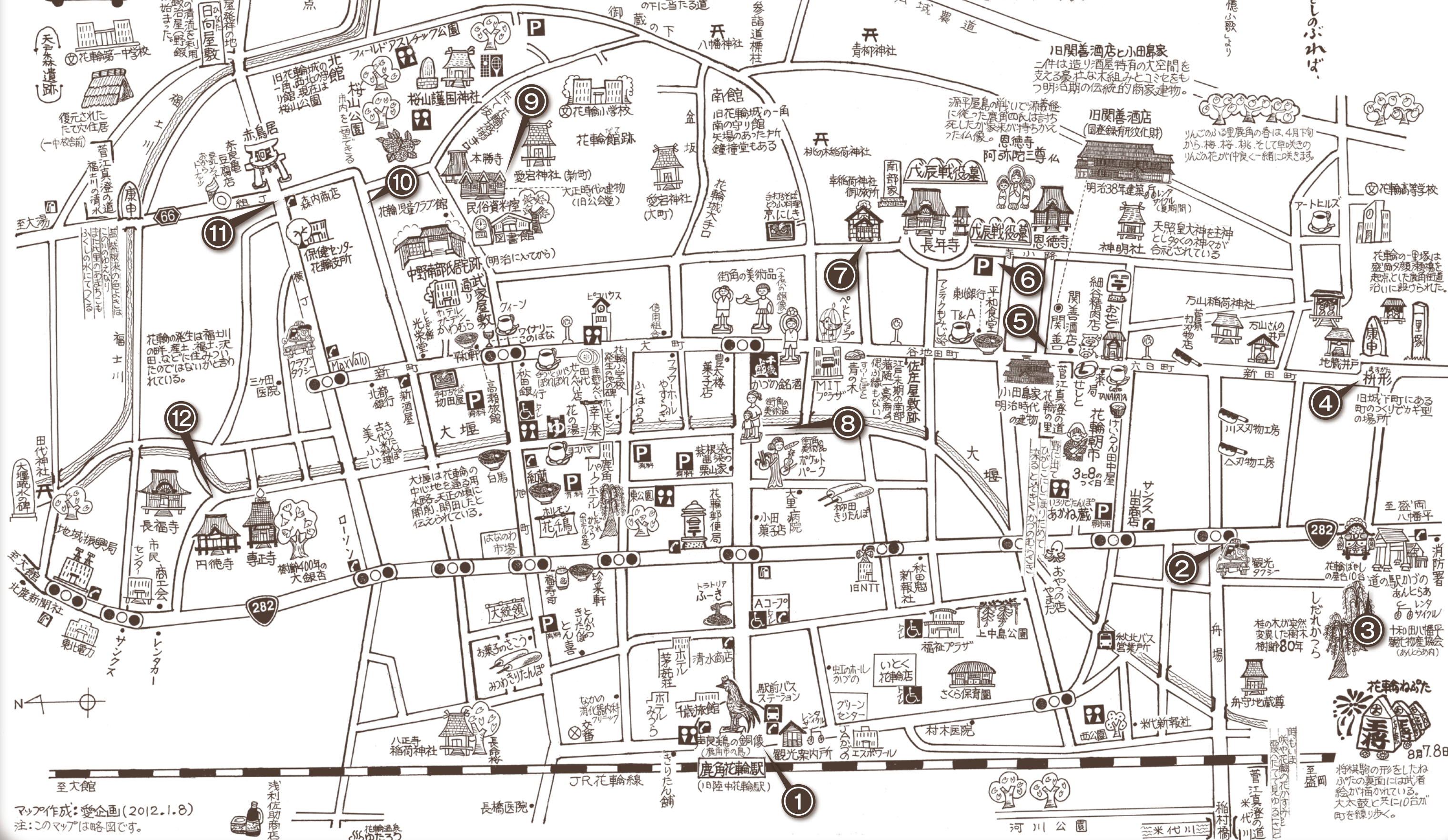
毛馬肉、花鰯の土地の産物にして、莖や紫根、柔の滑り、色合ひが美しい。鋭利な鎌を以ての刈りたてたる独逸の枝の鍛冶屋が自につく鑄造器、及びあらゆる枝物を売る店もある。ただ、津輕黒石の色あられ花あられには少しばかり劣るかも知れない。酒屋蔵もあつて、新酒のてくる頃ではなかりうつく。

今から約二百年前の文化四
年春、菅江真澄は日暮し峠を
越えて、鹿角市毛馬内に入っ
た。その印象を次のように記
している。

里肥え
人ゆたかにすめり

鹿角の国を州に
分ちしより

あま かいやま
青垣山を繞らせる
あま かいやま
天さがる鹿角の國をしのぶれば、
なみた なが
涙し流る。――
啄木



マップ作成: 愛企画 (2012.1.8)
注: このマップは略図です。

将棋駒の形をしたねぶたの裏面には武者絵が描かれている。大太鼓と共に10台が町を練り歩く。

